

## ウガンダの太陽（その 1）

ウガンダの稻作にかかわり、10 年程が経つ。様々な季節を経験する中で、気になった赤道直下の国の太陽にまつわる話をいくつか紹介する。

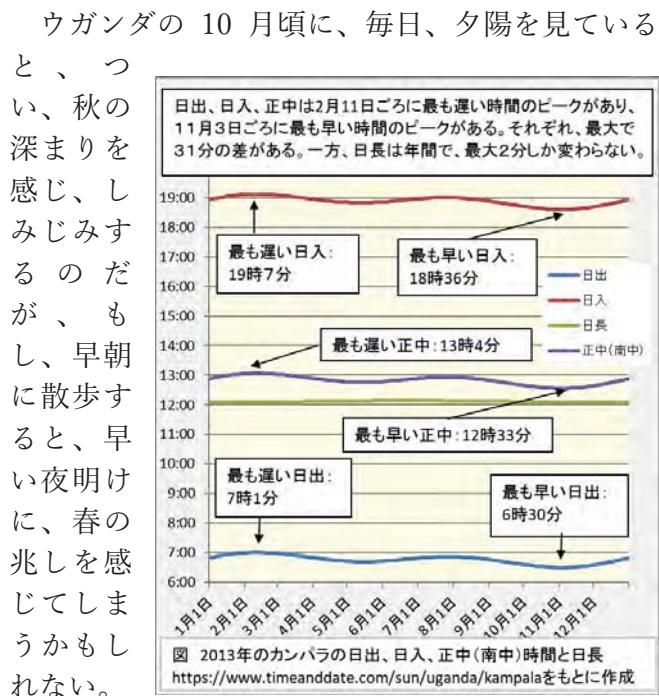
### （1）標準時に比べ、時差がある？

2007 年 3 月に初めてウガンダに赴任した時、時差ボケで少し早起きし、ゆっくりしていた。ようやく夜が明けたと思ったら、すでに午前 7 時頃になっていて慌てた。ウガンダの国土は東経 29° - 35° 度の範囲にあり、ウガンダが採用している標準時、UTC+3 時間の基準となる東経 45° 度線は、はるかに東にずれていることから、日の出が午前 6 時半から午前 7 時ごろになっている。実際の太陽の動きと標準時に 1 時間弱の時差があるといえる。UTC+2 時間の基準の東経 30° 度線はウガンダの国土の西端を通るので、そちらに合わせたほうが、生活のリズムに合うのではと、私は思うが、地元の人には不便はないのだろうし、東アフリカの隣国と時差がないことは、経済的に有益だろう。これに関連して面白く思うのは、ウガンダの昼食の時間だ。勤務する試験場の昼休みは 12 時半から 14 時だが、食堂は 13 時頃にならないと準備ができない。はじめは「なんて段取りが悪いのだ」と思ったが、出張で地方の食堂にいっても 13 時頃にならないと準備が整わないことが多い。12 時頃から開いている都会のレストランでも、来客のピークは 13 時過ぎの様だ。私にはウガンダの人々が、標準時の正午ではなく実際の太陽の正中（南中）に合わせて昼食をとっていようと思えるが、どうだろうか。太陽の高さと食欲はあまり関係ないかもしれないが、日出の時間と朝食の時間には関係があるかもしれない。

### （2）日出、日入が 30 分前後する。

当初は 2 月から 6 月までに出張することが多かったが、2013 年に初めて 10 月から 12 月にかけて滞在した。その時期は、帰宅時の車窓の日暮れ

が日に日に早くなり、日本と同じく冬至に向けて日が短くなっていると感じた。運転手に、「日暮れが早くなっているね」と話したら、「そうだ。その代わり、夜明けが早いんだ。」というので、驚いた。調べると、下の図のようになった。カンパラの日出、日入の時間は正中（南中）の時間とともに、平行移動的に年に 2 回の周期で最大 31 分の幅で早まったり、遅くなったりする。これは地球が自転しつつ、公転していることと関係するそうで、日本でも南中時間のずれとして、観察できる現象だが、緯度が高いため日長の変化の方が大きく、日出、日入時間の変化としては認識できない。日長の差のない赤道直下でこそ実感できる現象だという。このような、現象があると、ウガンダでは稻の開花時間が 30 分の幅で季節変動しそうだが、稻の開花は晴天か曇天かによっても 1 時間以上ずれることがあるので、確認は難しい。



（2018 年 10 月 小島伸幾）